

◆ 2021 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 地域人ネットワーク

24A-35

代表者：代表理事 白瀧 康次

URL : <https://chiikijin.com/index.html>

1. 活動が必要とされた状況

埼玉県の有地を利用したナタネの栽培と野菜づくりの農業体験教室を開催し、見沼たんぼの環境保全と青少年の健全育成を目標とした活動を行なっている。基幹栽培である菜種栽培は降雨による冠水为了避免のために畝を立てる必要があり、手押しタイプ管理機で畝立てを行なってきたが、3000㎡を超える面積であるため、体力的負担が大きいことが問題であった。したがって、令和1年に購入させていただいたトラクター型耕耘機に後付畦整形器を取り付け、トラクター運転で畝立て作業ができるようにして、作業の効率化を図ることが必要とされていた。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

9月26日に、後付畦整形器にサイサン環境保全基金のステッカーを貼り付けて（写真-1）、ナタネ畑の畝立て作業を行なった（写真-2及び写真-3）。作業は二人で交代しながらトラクターを運転することで畝立て作業を行った。



写真-1 ステッカーの貼り付け

写真-2 畝立て作業

写真-3 畝立て作業

3. 活動の成果

トラクターで耕耘しながら畝立て作業ができるようになったため、今までは1日かけてトラクターで耕耘した後に2台の手押し型管理機で2日間かかっていた作業を1日の作業で完了することができた。作業時間の短縮だけでなく、手押し型管理機操作は肉体的負担が大きく、当該NPO会員の問題である高齢化に伴う体力的な問題の解決に有効な手段となった。

4. 今後に残された課題

サイサン環境保全基金から令和1年にトラクター型耕耘機、令和2年にハンマーナイフモア、令和3年に畝立て機を助成いただき、広い畑の菜種栽培ができるようになった。残る課題としては菜種収穫時の脱穀作業である。

現在は2台の古い足踏み脱穀機で脱穀作業を行っているが、体力的な負担が大きく、会員の高齢化に伴って作業ができる人の確保が問題となっている。できるだけ早い時期に脱穀機の動力化が望まれる。